

Title	日本酒「酒蔵」の組織文化に関する調査研究
Sub Title	Research on Sake breweries' organizational climates and workers' consciousness
Author	小野江, 綾(Onoe, Aya) 高野, 研一(Takano, Kenichi)
Publisher	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	<p>日本酒産業は、古い歴史を有する日本固有の伝統産業である。創業100年を越える老舗企業が日本で最も多い業種であることがそれを物語っている。しかし、1975年をピークに消費量・酒蔵数ともにも減少の一途を辿っており、斜陽産業の1つとして数えられるほど、厳しい経営環境にある。本研究では、伝統産業の維持に向けて、持続可能な酒蔵経営を行っていくための今後の取り組みについて行動提案することを目的としている。一方、老舗企業であるほど変革が難しいと言われていたものの持続可能な組織へと変革させる必要がある。酒蔵の経営に関しては、国税庁を中心にいくつかの研究報告がなされているが、組織風土や文化を変革させようとする体系的な研究はされていない。そこで、本研究では、日本酒酒蔵で働く人に対する意識調査を通じて、酒蔵内の現状と問題点を把握することが大切だと考えた。</p> <p>実際には、文献調査・インタビュー調査を基に策定した組織文化形成の仮説モデルからアンケート調査質問項目を作成し、全国110社355人に対してアンケート調査を実施した。その結果、持続可能な酒蔵経営の条件となる企業評価(パフォーマンス)指標として定めた「年平均成長率」「酒の品質」「従業員満足度」の3指標に対する、調査の回答から明らかになった組織文化の関係性を分析した。得られた知見は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「従業員満足度」と第一主成分「文化意識」が有意な正の相関 ($r=0.603, p<0.01$)2. 「従業員満足度」と第三主成分「多評価重視」が有意な負の相関 ($r=-0.283, p<0.01$)3. 「年平均成長率」と第二主成分「販売努力」が有意な正の相関 ($r=0.252, p<0.05$)4. 「酒の品質」と第三主成分「評価重視」が有意な負の相関 ($r=0.210, p<0.05$)5. 「従業員満足度」に対して、社内変革意識よりも対外意識の方が直接的に影響している(共分散構造分析結果)6. 「従業員満足度」向上に対して「技術への自負」と「社内活気と対外意識」が大きな影響を及ぼす7. 「従業員満足度」に対して「利益追求」は大きな負の影響を及ぼす(6,7は重回帰分析結果) <p>これら結果の考察により、全国の酒蔵が共通して重要視すべき課題は「社外の人との協働」ということが明らかになった。その課題の解決案の一例として、同業者のみでなく教育機関等の社外の人との知的資源の相互活用によって新事業を創出するような状態を形成することが目的の"産業クラスター"導入をあげた。</p>
Notes	修士学位論文. 2010年度システムエンジニアリング学 第26号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40002001-00002010-0018

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文

2010 年度

日本酒「酒蔵」の組織文化に関する 調査研究

小野江 綾

(学籍番号：80933098)

指導教員 高野研一教授

2011 年 3 月

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

システムデザイン・マネジメント専攻

論 文 要 旨

学籍番号	80933098	氏 名	小野江綾
論文題目： 日本酒「酒蔵」の組織文化に関する調査研究			
<p>日本酒産業は、古い歴史を有する日本固有の伝統産業である。創業 100 年を越える老舗企業が日本で最も多い業種であることがそれを物語っている。しかし、1975 年をピークに消費量・酒蔵数ともにも減少の一途を辿っており、斜陽産業の 1 つとして数えられるほど、厳しい経営環境にある。本研究では、伝統産業の維持に向けて、持続可能な酒蔵経営を行っていくための今後の取り組みについて行動提案することを目的としている。一方、老舗企業であるほど変革が難しいと言われているものの持続可能な組織へと変革させる必要がある。酒蔵の経営に関しては、国税庁を中心にいくつかの研究報告がなされているが、組織風土や文化を変革させようとする体系的な研究はされていない。そこで、本研究では、日本酒酒蔵で働く人に対する意識調査を通じて、酒蔵内の現状と問題点を把握することが大切だと考えた。</p> <p>実際には、文献調査・インタビュー調査を基に策定した組織文化形成の仮説モデルからアンケート調査質問項目を作成し、全国 110 社 355 人に対してアンケート調査を実施した。その結果、持続可能な酒蔵経営の条件となる企業評価（パフォーマンス）指標として定めた「年平均成長率」「酒の品質」「従業員満足度」の 3 指標に対する、調査の回答から明らかになった組織文化の関係性を分析した。得られた知見は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「従業員満足度」と第一主成分「文化意識」が有意な正の相関 ($r=0.603, p<0.01$)2. 「従業員満足度」と第三主成分「多評価重視」が有意な負の相関 ($r=-0.283, p<0.01$)3. 「年平均成長率」と第二主成分「販売努力」が有意な正の相関 ($r=0.252, p<0.05$)4. 「酒の品質」と第三主成分「評価重視」が有意な負の相関 ($r=0.210, p<0.05$)5. 「従業員満足度」に対して、社内変革意識よりも対外意識の方が直接的に影響している(共分散構造分析結果)6. 「従業員満足度」向上に対して「技術への自負」と「社内活気と対外意識」が大きな影響を及ぼす7. 「従業員満足度」に対して「利益追求」は大きな負の影響を及ぼす(6, 7 は重回帰分析結果) <p>これら結果の考察により、全国の酒蔵が共通して重要視すべき課題は「社外の人との協働」ということが明らかになった。その課題の解決案の一例として、同業者のみでなく教育機関等の社外の人との知的資源の相互活用によって新事業を創出するような状態を形成することが目的の“産業クラスター”導入をあげた。</p>			
キーワード (5 語) 組織文化, 意識, 酒, 老舗, 伝統産業			

SUMMARY OF MASTER’S DISSERTATION

Student Identification Number	80933098	Name	Aya Onoe
Title Research on Sake Breweries’ Organizational Climates and Workers’ Consciousness			
Abstract This research visualizes the structure of workers’ consciousness in Sake brewery for the suggestion to become sustainable companies. Sake breweries are recognized as the longest established companies that they have long valuable Japanese culture made by long history. The research composed of 4 parts; hypothesis model creation, implementation of questionnaire survey, analysis and discussion. First of all, hypothesis model of organizational climate is created by literature studies and interviews for the workers in Sake wholesale store and Sake breweries. The survey sheets for 110 companies 355 workers were analyzed for visualizing workers’ consciousness to understand the important consciousness element. The purpose variables for sustainable companies are defined as “Compound Average Growth Rate”, “quality of Sake” and “self consciousness”. As a result, the stuructre of workers’ consciousnesses with first two of the variables were unable to be visualized because of less statistic relations between them. Only the structure with self-satisfaction could be visualized that self-satisfaction is positively effected by “pride for the technique”, “external relationship” and negatively effected by ”profit desire”. Especially, the companies that have future worries have less importance on “external relationship” even though it should be cared. Therefore, the most important element for self-satisfaction is “external relationship” for the workers’ satisfaction. At last, the suggestion for the action “industrial cluster ” is mentioned .			
Key Word(5 words) Sake, organizational climate, consciousness, traditional company			